

第5回高尾の里拠点施設整備あり方検討会

開催日 平成24年7月19日（木）午後6時

開催場所 八王子市役所本庁舎801会議室

- 事務局 ただいまより、第5回高尾の里拠点施設整備あり方検討会を開催します。まず、前回の会議でご説明しておりますが、今回の会議は公開で開催するというのでよろしいでしょうか。
- （「異議なし」との声あり）
- 事務局 ただいま委員より、ご意見を賜りましたとおり、第5回高尾の里拠点施設整備あり方検討会は公開で開催します。それでは、これより座長に議事進行をお願いいたします。では、座長、お願いいたします。
- 座長 それでは会議を進めてまいります。本日は第3回までにとりまとめた展示内容をもとに、前回、平成24年6月27日に開催いたしました第4回のあり方検討会で皆様からいただいた意見を踏まえて、スタッフの、私のお手伝いをいただいておりますアドバイザーさん、それから業者さん、事務局、それから本あり方検討会の最終的な報告書を策定したとのことです。その提案書の説明の前に、事務局より提案書の取り扱いについて説明願います。
- 事務局 皆様、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。ご説明いたします。ただいま座長からお話いただいたように、第1回目から第4回目まで、委員の皆様にはいろいろな立場から貴重なご意見、ご協力、ご指導などをいただきました。その結果といたしまして、高尾の里拠点施設整備あり方検討委員会の展示内容の提案を作成するに至りました。感謝申し上げます。本日は委員の皆様の机上にその書類を配付させていただきました。また、後ほどご説明申し上げますが、最終的には一つの本にまとめたものを各委員の皆様にお届けしようというふうに考えてございます。これはまた会議の一番最後のときに改めてご説明申し上げますが、本日、これから使う資料につきましては、これから見ていただく説明の資料ということでご覧いただければと思います。最終的に、とりまとめたものにつきましては、製本したものを各委員の皆様にお手元にお届けしたいと考えてございます。以上でございます。
- 座長 それでは、前回、皆さんからいただいたご意見をもとに、全会一致という形で賛同を得ましたが、いろんなところをそれからよくしました。それで全体を通して今日はアドバイザーのほうから説明をしていただいて、全体のストーリーを皆さんにもう一度確認していきたいと思っています。では、よろしく申し上げます。
- アドバイザー よろしく申し上げます。前回までにご了解いただいた部分を、今150ページほどになっているんですけども、報告書として本の体裁にまとめましたので、それを全体的にどういうものをまとめたかというところを本の順に沿ってご説明させていただきたいと思っております。ちょっと数が膨大になってしまいますので、なるべくスムーズに話が進められるようにいたしますので、よろしく申し上げます。まず拠点施設のご提案にあたっては、目指すべきものというのは、「高尾山が、次の100年も世界中の人々に愛され続ける山であるために。稀に見る豊かな生態系や薬王院に代表される歴史など、高尾山が内包する

魅力を今いちど丁寧に見つめ直し、新しいカルチャーと、まちの新たな活力を創出していくこと。」ということを考えながら、そのためには拠点施設が保有すべき機能とは何かと考えたときに、一番最初の検討会で、(スライド画面が)遠くて細かくて見えにくいとは思いますが、皆様方からいろいろ寄せられた意見を集約すると3つの機能に集約できるのではと思います。「ミュージアム機能」であったり、「公園・広場の機能」であったり、あと「ビジター機能」、観光・登山補助ですね、これらの3つの軸を持たせるために魅力的な空間を実現するための5つのキーワード、これは前回もお伝えしておりましたが、「新しい視点で生態系を見せる」、「誰もがくつろげる」、「臨機応変に対応できる」、「子供や家族が楽しめる」、「内と外の運動性がある」、というこの5個のキーワードをひとつひとつ整理していきたいなと思っています。基本構造としては、この「くつろぎスペース」、「展示スペース」、「映像スペース」。高尾山に来た人がまず訪れ、下山してからも訪れるための施設として、この3つの要素で構成したいと考えています。これは図面で、どういう部分が「くつろぎスペース」、「展示スペース」、「映像スペース」かというものを指し示したのですが、1階と2階の両方ともに展示スペースを設けています。人出が多いときにはくつろぎスペースが可動式の什器によって広がって、そこをフレキシブルに利用できるような空間を考えております。また、その拠点施設単体だけではなくて、ケーブルカーの駅もしくは高尾山口の駅、ここの動線の中に拠点施設が入ることによって、森林センターだったり、その屋外スペースというものがより活性化するような外部との連動も考えています。これはその図面に落とし込んだものです。非常時には避難スペースとなり、すべての館内、ここは館内ですが屋外ももちろん避難スペースとして使えるような環境を考えております。

2番目として、拠点施設のコンテンツについて、各ゾーンのご説明に入っていきますが、くつろぎスペースにはCAFÉ機能や誰もが活用できる空間としての機能を持たせて、内と外の連動した気持ちの良い空間であること、外では芝生で自由にくつろげること。多摩産材を用いたテーブルやベンチの設置ということを考えております。もう一度図面で見ると、くつろぎスペースというのは一番手前の黄色い部分ですが、屋外と室内のグラウンドレベルをそろえることによって内と外の連動性をもたせて、カフェテリアによって、ここでコーヒーをたのんで、ゆったりこのカフェの前のテーブルで皆さんくつろぐことができるような施設を考えています。

縦長の細長いテーブルと横にあるベンチは、これは多摩産材を用いてオリジナルの家具を作れないかなというふうに考えています。屋外では芝生をおもに張ってお弁当を食べたりとか、遠足などで来た子供たちが遊んでくれるような、誰もがくつろげる空間として考えています。

同時にそのミュージアムショップというものも併設させて、カタログやオリジナルグッズ、八王子の産品、地元のクリエイターの作品などを販売するスペースとします。高尾山のお土産を販売するだけではなく、あくまでもミュージアムグッズの販売に特化することで周辺店舗との競合を避け、差別化を図りたいなと思っています。これはこのようなSHOP599と名付けていますけれども。

あと、前回の検討会の際に一部意見をいただいた部分なんですけれども、登山前の予習の施設として、頂上、中腹、麓の3地点を中継するライブカメラモニターを設置して、

リアルタイムの高尾山の情報を、今ここにあるショップの右側のこの部分ですが、ここにライブカメラを設置して登山前に今何か通行止めになっていたりとか、山頂でどういう風景が見えているかということを一度確認した後に登れるような予習の機能を持たせています。

展示スペースに関してに移りますが、展示スペースはフレキシブルな環境利用の実現ということで、可動式什器の採用を考えております。高尾山の豊かな生態系をより魅力的に伝えることにこだわった展示で、「見る」はもちろん「触れて」「体験できる」、見せ方を工夫した展示も設置します。図面でいきますとこの青い部分が展示スペースになります。2階部分にも展示スペースがありますが、これも後ほどイメージ画像を見ながらご説明します。

展示施設の面積に関して言いますと、旧施設は666㎡で面積比率は40.7%だったのですが、今回の新施設は588㎡で面積的には減ってはいるんですけども、施設に対する面積比率としては43%というふうになっています。

施設全体の展示スペースは16台の可動式の什器を並べることによって、高尾の自然であったり、一番奥に見えているのは、ちょっと説明しますが薬王院の紹介のブースも設けています。

この展示の什器をはずしますと、この中はワークショップであったり会議であったり、それぞれの用途によってフレキシブルに使える環境になる設定です。震災等の、あとはぶっかったりとか、そういうところの安全面に配慮するために、ここはストッパーを頑丈なもので地面から突き出したボルトに什器を差し込むというか、なので大震災が起きた際も、この什器が飛んだりして二次災害が起こらないような安全面にも配慮しています。

専用カートというのも用意しようと思っていて、これは子供を乗せるとちょうど展示台を見るのが親子同じ目線になるような仕組みを考えていまして、こうした取組みが拠点施設ならではのユニークポイントとなって話題になるのではと考えています。

細かく展示什器の説明に入りますが、16台の展示什器は、それぞれ高尾山の基本情報からあとは植物、昆虫、あとは引出しだったり、触れる展示というもので全体を16台で構成しようかと考えています。

これは高尾山のホワイトスケールのジオラマで、高尾山の起伏を再現したジオラマにルートを書き込んで、どのような地形をしているのかということ把握してもらうための展示台です。

その次にあるのが高尾山のルートの解説をしたもので、高尾山の登山ルートを細かく説明する展示になります。寄ったものになるとこのような感じですが、それぞれのルートごとの特徴を端的に説明する展示台になります。

また、こちらは高尾山の歴史年表で、グラフィック+映像で考えています。右に見える細長い線になっているものは言葉で説明してあるんですけど、小さい子だと分からなかったりとか、この前でずうっと読むということはなかなかご老人だと難しいので、左側にモニターを埋め込んで、2分間ぐらいのまとめた映像を流そうと考えています。

また、その次の展示台は高尾山の見どころとして映像のモニターを3台入れて、「山頂からの景色」と真ん中は「高尾山の秘密」、これは写真表現に関わらず紅葉のしくみだった

り、高尾山の地形のしくみだったり、そういう秘密をここで映像化しようかと考えています。一番右のモニターでは「山道で出会う」自然というふうに題していますが、山頂だけではなく、そこに向かうまでのいろいろな美しいポイントというものを映像にまとめたいと考えています。

その次は、これは自然の植物、生の植物をアクリル封入して高尾山のこの施設の特徴的な展示にしたいと考えている部分です。植物を8台の什器にずらっとアクリル封入された花を並べることによって、春に来て冬も冬も植物が見れたりとか、もちろん夏に来て冬も植物が見れるというようなことを象徴的に展示できないかと考えています。照明は天板自体が乳白の板で覆われていて、裏からバックライトを当てて透過させるような表現方法を考えています。実際にこれは撮影して撮った画像です。実際にこのように見えるかと思っています。

あとは高尾山の昆虫の展示ですが、これも先回説明したとおり、かなり数多くの昆虫が捕れるというふうな、言葉だけで聞くよりもやっぱり見た目的に「わっ、たくさんあるな」というふうに思わせるということが子供たちのイメージに残っていくんだと思いますので、できるだけ多くの昆虫を一つの展示台の上に載せて、こんなにたくさんの昆虫がいるんだということを知ってもらえたらなと思っています。あとは高尾山の昆虫のちょっとユニーク展示として、普段であれば映像でしか見れないようなこのストップモーションの展示を、実際の昆虫をこの型に納めて、あたかも飛んでいる形が想像できるような展示を考えています。

それぞれの展示物に関しては、ただ眺めるだけではなく、「見て」「触れて」「学べる」ということをキーワードに構成しております、ひとつひとつの展示が未来の文化を創り出す子供たちにとって生きた教材になるよう、展示物に特徴、個性を持たせています。実際に触って感じる展示としては、この普段足下に転がっているこの木の実などを集めた展示台も作りまして、ここから子供が1つドングリを取って、横の引出しを開けると、そこでまるで答え合わせができるような感じで、学べる展示も検討しています。

あとは、のぞいて学ぶ地中・水中展示ということで、これはアクリルでそれぞれ水の中だったり土の中だったり、普段は見れないところを、この展示台の横に空いた穴をのぞき込むことで見えるようにした展示になります。

こちらも前回の検討課題になっていました薬王院と高尾山の関係ということを取り上げたブースになります。殺生禁断の思想により保存・維持されてきた史実をはじめ、信仰の霊山として親しまれてきた歴史と現在を紹介する展示になります。ここはメインの展示フロアの奥に配置しております。

あとは子供教育学習コーナーとして、高尾山の起伏を再現した子供たちが遊ぶコーナーも設けております。山にはまだ登れない子供たちであっても、高尾山の起伏を再現したこのスモール高尾のようなこの部分で遊ぶことによって、自分も少し高尾山に親しみを感じてもらえたりすればいいなというふうに思っています。このカーペットの上には高尾山で取れた産材を使った積み木なども転がっております、手でも自然を感じることができるようなブースにしております。

八王子の観光コーナー、これも世界中から訪れる来館者に向けて八王子の情報を発信するコーナーとして、前はちょっと入れていなかったんですけども、エントランス付

近に小型タッチパネルモニターを3台ほど用意して、八王子のインフォメーションを入口で流せればなど考えております。

次は映像スペースなんですけれども、こちらも過去の検討会でもご説明しましたが、高尾の自然をダイナミックに見せるNATURE WALLとして、剥製を壁面に展示したいと考えています。通常は映像は流れていないのですが、時間によって一日何回かこの剥製が並んだNATURE WALLに映像を当てることによって、実際の剥製と映像のよりダイナミックな表現ということができるのではと考えています。

このあたりの細かい説明、ちょっとはしらせていただいて、この画面を観ながらご説明いたしますが、実際に映像が流れる際には、この四角い突起物が映像のきっかけになるように考えていまして、例えば映像を当てると、ここが鳥の巣になって高尾の春を表現します。夏はここが浅瀬の表現になりまして、この突起物は石のような感じになりまして、水がここにちょっと当たったりとか、この石の裏から魚が出てきたりとか、秋になりますとこの突起物は紅葉のカラーチャートになりまして、いつぐらいが見どきかということが分かるような見せ方にしようと思っております。冬になりますと雪山の銀世界の中にウサギの巣のようなものがこの突起物に映し出されまして、あとは映像がこの実際の剥製とともに絡み合いながら高尾の自然を表現していくような特徴展示の部分だと考えています。

同時に高尾山の中に鳥もたくさんおりますが、実際には見ることも、なかなか出会うことも難しいので、鳥の鳴き声アプリというものを用意しようと考えています。いまの剥製が展示されていたスペースに鳥も同じように展示されていますので、この携帯電話ぐらいの大きさのこのアプリケーションを受付で借りて、鳥の前に行くと、その鳥の映像と鳴き声と一緒に確認できるような展示になります。

あとは、ギャラリー高尾、STUDY WALLというのは、これは2階の部分になるんですけれども、ギャラリー高尾では、市民が展示、会議をしたり、災害時には本部を置いたりすることが出来る。STUDY WALLは登山前の装備や山の気象や地形、または登山に関する基礎知識を集約した展示グラフィックスペースになります。2階のこの左の青い部分になります。

ここはギャラリー高尾なのですが、ここも展示がされているときもあれば、ここに机を置いて会議をすることも出来ますし、窓際には、ここにハンズオンで子供たちが展示物を手に取って自由に体験することが出来るコーナーも設けております。

STUDY WALLに関しては、ギャラリー高尾を出た廊下に面したところに設置しておりまして、登山の基本情報はもちろんのこと、これもご指摘いただいた、現在増えている問題点として軽装登山などということがありましたので、そういうものに関しては、ここで登山前の基礎知識と生態系の保護を訴えた啓蒙メッセージも合わせて展示できないかと考えています。

あとは、屋外スペースへの展開というものは、これは今後の検討事項として一応入れておりますが、実際に子供たちは外で自然に触れながら木漏れ日を浴びて高尾を体験してもらったほうがいいのではと思ひまして、課題がクリアになり次第、ここは実現に向けて取り組めばいいなと考えているところです。

3番からは拠点施設のブランディングについてですが、こちらTAKAO 599MUS

EUMというところで、前回ご指摘いただいた高尾山というところも考えたのですが、今仮にTAKAO599MUSEUMとして進めさせていただければなというふうに考えています。

コンセプトとしては、「価値の転換。そして、新しい価値の発見」として、599というスカイツリーよりも低い数字ではありますが、それでも生態系に富んだ豊かな山として、この数を、599という数字を誇りにして、その数字が持つポテンシャルを最大限に発揮できないかなと考えています。

ここに強い発信力であったり、子供も覚えやすかったり、新機軸感の演出であったり、ブランドの基軸として、展開しやすかったりとか、そういうところを。その後ろに、デザインの統一と合わせてイメージを載せています。例えばエントランスサインでは大きくこのロゴを使うことによって、この前で記念撮影をされた方々が自分のブログであったり、フェイスブックに載せた際にも、常にこの名前が一人歩きして行って、この施設が皆さんに知れ渡っていくということを考えています。

館内サインについても同じように、トイレ、矢印などのピクトグラムも合わせすべて同じデザインのトーンで制作したいと考えています。この599MUSEUMが発信するアプリケーション、チラシであったりとか、名刺であったり、封筒であったりという物にもすべて同じログを入れてイメージの連動を図っていきます。

あとは、登山に向けて実際に季節ごとにはルートによって見どころも違うと思いますので、それぞれのルートに一番特徴を掴んだ部分というものをA4判ぐらいの大きさのシートにその季節ごとにまとめて、これを1枚ピリッと破って、登山する前に持って行ってもらえるとおもしろいなと考えています。

599カタログというのもミュージアムショップで売れるといいなと考えておまして、これは展示でも使っておりますが、アクリル封入した花を並べることによって、アクリル封入した花は150から200ぐらい用意しようと考えていますので、それだけでたぶん一冊の植物の生態系の本が出来上がると思うんです。なので、それを高尾山のこの季節の特徴的な展示をそのまま書籍にも落とししていきたいなと考えています。

あとは、カフェに関しても、このカップであったり、コースターであったりというところにも同じデザインを落とし込んでいきたいと考えています。また、高尾山産まれの木積み木というのもミュージアムショップで売れるといいのではと考えています。高尾山で取れる様々な木材を使って、色や質感、重さ、匂いなどの違いを体験しながら遊べる子供向けの積み木になります。また、599WATERというものを作ったり、展示物のそのアクリル封入した花を使ってカレンダーを作ったり、同時に広報物として、施設内だけではなく、電車の中であったり、駅であったり、そういうところでも高尾山がちゃんと機能していくように、あらゆるものにこのログを入れていきます。

また、登山客の、シールとしてのこういうステッカーを作ることもできると思いますし、例えばこのシールを売るためのちょっとしたアイデアとしては、シールの購入費の何%かが高尾山の自然保護の寄付金となる仕組みを作って、このシールにメッセージのあるそういうものを作って、これを、ステッカーを買うと幾つか自分も高尾山に貢献できる、自然保護に貢献できるようなメッセージを含めたものになればいいなと考えています。

施設のプロモーションとしては、先ほど申し上げましたが、一番最初申し上げたとおり、100年後も魅力と活力に満ちた愛され続ける山であるために、ブランドコンセプトを開発・規定しまして、そのコンセプトを基軸にPRを展開していきたいと思えます。

そう考えたときに、高尾山全体というのは、はじまりの山、高尾山というふうを考えておまして、ここはちょっと細かくなりますが、599mの高尾山は決して高い山ではありません。ただ、とても大きな山ですという、ここもちょっと細かい文章ではありますが、前回ご説明したとおりで、はじまりの山としての高尾山を全国に広めることができればいいなと考えています。

はじまりの山と定義する根拠としては、新しい発見や新鮮な驚きとの出逢いによって、知らなかった自分に出会える山。また、599m。高くないというスケールメリットによる、一般人にとっては「はじめの一步」の山。3つ目としては、東海自然歩道、全長1357km、終着点は大阪・箕面山の起点になる、なのでこれではじまりの山として規定しています。これも実際に高尾山の風景でカメラマンに撮ってもらったものではありませんが、こういうポスターが出たり、中刷りで、駅で、いろいろ高尾山の植物だったりとか、森であったりとか、そういうものがいろいろなものに展開されていくと、より素敵で皆さん好きになってもらえるんじゃないかと考えています。

また、駅に到着するとバスが迎えに来ていたりとか、施設の周辺に行くとフラッグで誘導されたりとか、どんどんその気分を高揚させるような仕組みを施設の外にも広げて考えていければと考えています。

これ以降に関しては、書籍化、報告書にまとめる際に参考資料として全体のスケジュールと、あり方検討委員会の名簿とあり方検討会の経過、また、設置要綱というものは最後にまとめさせていただいて、一冊、報告書としてまとめさせていただきたいと思えます。

駆け足ではありましたが、以上です。ありがとうございました。

- 座長 どうもありがとうございました。
- 今、このデータのほうで報告書にしていくということで、皆さんに一冊ずつ、委員の方には差し上げるものになるものも、昨日も徹夜してやっていただいたわけですが、今、アドバイザーのほうから説明がありましたが、何かご質問とか、ご意見とか、ありましたら。
- 委員 報告書にするというのは、もう決まったということなんですか。
- 座長 一応これは仮にということで、この委員会で出したいというので、あと、最終的にはまた市のほうで検討していただくことで。
- 委員 2点ほどちょっと。
- 前回決まったその部分の中に、4、5年前ですかね、東京都の自然公園課が主催した会議で、高尾山ルールというのを作ったんですけど、それは基本的に高尾山の自然を守ろうということのために、高尾山使用ルールみたいなものですかね、八王子市も出していた

し、国も、林野庁も出ていたし、そのみんなの中で話し合っ、9項目で、例えば林道をどうするとか、あと当たり前のことです、たき火をしないと、もう本当に当たり前のごみを捨てないとか、でもそれ、レベルをちゃんとしっかり啓蒙することがすごく大切なんじゃないかというので、その自然公園課が主催していただいた会議で決まって、高尾山商店会は、それを印刷したり、あとは若葉まつり、もみじまつりというお祭りをやっています、ごみ持ち帰り運動というのが高尾山から始まったというようなことで、エコバックにその文章を9項目印刷したり、それを皆さんに配ったりとかして、そういう運動をずうっと継続してやっているんですよ。

ですからこのミュージアムの中で、やはりそういった一番基本線をしっかり啓蒙させるということはすごく大切だと思うんです。100年というのが、まず自然が守られて100年という話になるんじゃないですか。だからまずこちらが先にしっかり守れないと。今現実にすごくボランティアの方なんかも、薬王院の方なんかもいて、みんな結構、山を歩くとごみを集めて拾っていらっしゃる方ってかなり多いんですよ。だからこれは本当に、もうちょっと吸い殻なんかを捨てるということは恥ずかしくてできないというようにやっぴりなっていくと思うので、まず基本はそこをしっかりと押さえていただきたいなど。

それからあともう1つ599に関しては、こういうミュージアムをつくるには、いろいろなことを考えると、まず誰でもオリジナルを創ろうと、創りたいという願望があって、誰も創ると思うんですけども、コスト意識はどうなっているのか。既製品で創れば当然安くなるものが、オリジナルで創るとものすごく高くなるわけですね。ロットもあるわけですし。じゃこれを幾らつくって、それがどう売れてというのは、どこまでちゃんと管理できるのかなというのが非常に。結局、不要在庫が倉庫にたまっちゃっていて、どうせ税金でやっているんだからいいじゃないという話になって、ここで、たぶんすごく無駄が出るんだろうなというのはちょっと想像できるんです、このオリジナルグッズとかに関して。

デザイナーさんとかそういう方の思い入れで599って、なかなかおもしろいとは思いますが、今現実にこの前の会議でもお話した高尾山のTシャツの売れるって漢字なんですよ。漢字の高尾山というTシャツが売れて、ローマ字の高尾山なんていうのは売れないんですよ。だから、その漢字の高尾山というのが今は受けている。だからその辺も踏まえて、この599というのでお金をかけていくことは、たぶん回収はできないでしょうし、非常に経済的に負担ができて、これがうまく成功すれば非常にいいですけども、成功する確率は非常に少ないんじゃないかなというふうに思います。

○座長

分かりました。最初の項目につきましては、また実施設計の報告書がトータルメディアさんで出ますので、その中の参考には入れていきたいと思えます。

一応前回まで、この間これで全員一致でもらったということで、これはこれでまとめて、それから先ほどのコストが、成功するかしないかというのは、ここで私とまた皆さんで議論しても、これが採算に合うかどうかというのは、これから詰めていかなければならない問題ですから、でもこういうような方向で考えていくということでいっておりますので。それで何を創っていくかは、これは提案ですので。今の段階で成功するとか

しないっていうのは、時代がどう変わっていくか分からない。それから時代を見抜きながらオープンに向けてまたやっていくことですので、今の段階では、そこで成功しないからとか、成功するからということじゃなくて、一応この段階ではそこまでまだ、コストのことまでは、これからはどれをやるかということは考えていかなきゃならないわけですから、今売れているものがまた未来、売れるかどうか分かりませんので、またそれを見定めながらこれを使っていくという形で、そこでまとめていくという形でどうでしょうか。

○委員　　まず、でも基本的にコスト意識を持って初めから計画しなくちゃいけないと思うんですよ。

○座長　　そのことはコスト意識を持っているからここまで提案したわけです。本来は、この商品のことは、細かいことはこれから議論していくことで、こういう展開も出来ますよということを、これ言っているだけです。最初の施設を運営するために、そういうグッズを創っていかないと経営が成り立たないということで入れたということですので、そのあたり、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○委員　　ここをしっかりと報告書に入れていただきたいと思います。

○座長　　それも業者さんのほうで、実施設計のほうの、委員会のほうでそういう意見が出たということは伝えます。
ほかによろしいでしょうか。

○座長　　それではご質問がないようですので、ご報告いただいたこの提案書については、皆様を代表して私より八王子市長に手渡し、高尾の里拠点施設整備あり方検討会の結果報告とさせていただきます。
それでは、この高尾の里拠点施設あり方検討会における展示内容に関する討議は、本日をもって区切りをつけたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○座長　　ありがとうございます。皆様のおかげをもって、内容ある議論が短い期間の中で密度高く出来たと思います。私は今回の座長としての仕事をここで終了したいと思います。
皆様どうもありがとうございました。

(拍　　手)

○事務局　　座長、本当に2月から本日に至るまで、いろいろとありがとうございました。
ただいま今日、ご報告いたしましたこの内容につきましては、先ほど座長のほうからもご説明させていただきましたように、来週7月24日に、座長、それからアドバイザーとともに、八王子市長へ、ただいまいただきました意見を付して直接お渡しをいたします。その後、庁内で内部会議がございますが、そこでもきちっと説明をして、この皆様から

いただいた意見を大切に取り扱いながら、施設建設に向け工事調整を進めてまいります。また先ほどの報告にもありましたように今後のスケジュールについては、大きな進展があるたびに、また皆様にはご報告する予定で考えてございます。その時にまたお考え、お力等いただくことがあると思いますので、その節にはよろしく願いいたします。施設の建設は今年度中に建築に関する許可申請を行う予定でございます。平成25年度の着工を目指してこれから事務を進めてまいります。また平成25年度には展示品などの準備も考えてございます。26年度から平成27年度にかけて運営の準備期間ということで考えてございます。もちろん、ただいま委員さんのほうからもありましたように、コスト意識、これは確かこの会議の中でも2回目以降、3回目以降、ずいぶんその提案はいただいております。これも含めて、考えていかなければならないというもので考えてございますので、そちらもきちっと視野に入れて考えてまいります。またその中で皆様にはきちんと報告をさせていただきたいというふうに考えてございますので、どうぞよろしく願います。運営につきましては指定管理による公募を予定しておりますが、運営計画をまとめる際、必要があればですけども、お話をさせていただきましたように、またご相談申し上げたいと思いますので、その節はどうぞよろしく願いいたします。それでは、会長より、一言お願いいたします。

○会長

高尾の里の検討会が再開いたしまして、2月からちょうど5ヵ月間に5回、会議を開催いたしました。この間、会議も前回までは非公開ということで屈託のない意見、あるいは実りある提案をしていただいたことが今回の提言に表れていると感じております。私も実を言いますと、と言っちゃあおかしいですけども、平成15年の12月に旧自然博物館が市のほうに移管になりまして、その後、施設整備検討会、平成17年ぐらいたったと思いますけれど、そのときに部長が隣の部長（副会長）で、私が課長で事務局をやらせていただいております。約1年間でしたが務めさせていただきました。そのときから見ると、こうした一定の成果というか方向性が見えたということは大きな前進をしているなどと思います。ただ、今まで8年ぐらい時間がかかったということは、やはり地元の皆様にとってはもう少し早くしてほしいとか、そういう期待もあると思いますので、今後はその期待を裏切らないように提言書を含め、それから皆様方から出てきた意見というのは自治体のほうに伝えながら、施設建設、その後の運営、こちらのほうに生かしていきたいと考えておりますので、今後とも、またご意見あるいはご提案いただく機会があると思いますけれど、そこも含めて、よろしく願いたいと思います。5回という5ヵ月、短いのか長いのかというのがありますが、密度の濃い議論がさせていただいたことに感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(拍手)

○事務局

ありがとうございました。次に、このあり方検討会の座長を2月から本日まで務めていただきました先生、それか

らずうっと説明に携わっていただきましたアドバイザーさんに、一言ずつ思いの丈、それからご挨拶をいただきたいと思います。
座長のほうから、お願いします。

○座長

本当に皆さんの協力を得て、私とすれば、みんなでこの検討委員会のメンバーが胸を張って誇りを持っていけるようなものに、全国でないようなものが出て来ると思います。私、こういう全国や世界のいろんな魅力ある施設を見せてもらったときに、この委員会のときも最初にいろんな意見はあっても、魅力ある施設をつくってほしいというのが大課題でした。

いろんな条件がありました。博物館機能であるとか、インフォメーション機能。でも、これからはインフォメーション機能であっても、観光施設であっても、文化的な機能を持たないと評価されない。そしてまた文化的な施設も分かりやすく、いろんな人たちが訪れる魅力を持ってないとなかなか来てくれないという、これを解決するというところは非常に難しかったわけですが、それをできるだけ見える化して、デザイン入れて、分かりやすく、親切に、丁寧に、そして美しいということを私はお願いしてきたつもりです、デザイナーの方に。

皆さんが見える形で議論が出来たということは良かったんじゃないかなと。どうしても言葉で博物館はこういうふうにつくれと言っても、それを絵に描かなければ分からない。それから、インフォメーション機能についても、どういうインフォメーションだというのを、それを絵に描いていかなきゃいけない。絵に描いて見えるところで皆さんと分かりやすく議論していくということをやらないと、なかなか専門用語や言葉だけでは皆さんの情報交換ができないという点があると思います。

今回の特徴は、これから未来に向けて今の文化施設、そしてインフォメーション施設、そういうメディアも非常に変化していますので、専門性とともにより若い人たちの力を得て、未来に向けて情報発信していくということで、非常に情報の魅力、そして空間のデザインの魅力、そういうようなことを、出来たんじゃないかなというふうに思っています。私は伝統や文化というのは革新の連続だと思っています。土地の力を覚醒させる遺伝子というのが、私は伝統や文化にあると思います。そのことがこれからつくっていく意味があると思います。この委員会でいろんな意見を密度濃く本当に真剣にさせていただいただけに、真剣に案については取り組むというようなことに全国どこに出しても恥ずかしくない。報告書そのものも一つの哲学書と言いますかバイブルになるような、基本になるような、胸を張って後世に残していけるような、国会図書館に届けてもこういうようなものをつくっていくんだという意味と、それからその運営に当たっても、先ほど言われまされたけれど、これが持続可能で運営できるために様々な工夫はしていかなければならないと思いますが、それにしても皆さんの熱意がここまでの、してきたというふうに思います。緊張感もあります。

最終提案が全会一致でできたということは、皆さんとともに私も本当に感動しました。短い期間の中で魅力的な実施設計が完成してきたといえますか、実施設計の案が完成してきたというのは関係者の皆さんの賜物だと心から感謝しております。

未熟な座長でしたが皆様のおかげで今日まで、ここまで完成に至ったということを感じ

申し上げます、私の最後の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(拍 手)

○事務局 先生、どうもありがとうございました。
続きましてアドバイザーさん。

○アドバイザー 今回この説明に携わらせていただきまして、普段、僕が考えているやつのデザインをしていることに関して、ちょっと申し上げると、意見としては100ある正しい意見がずらっと並んでいるわけですけども、その100個の意見を同じ口調で喋っていてもなかなか人には伝わりにくくて、それを幾つかの方向性でまとめて、そこから形に落としていくことということを一回整理した後でアウトプットするということが大切だと思っていて、今回は5つのキーワードを出ささせていただいて、高尾山のこの拠点施設が機能する軸というものを考えていったわけですけども。

実際に制作実現に向けてはいろいろな課題が、もちろんコストの問題もあると思いますし、先ほど例に出していた積み木というのは、あれはそういうものがあると子供たちがより高尾山に愛着を持ってもらえるんじゃないかなというようなところを出した、あくまでも案であって、実際に中に入り込んでいろいろもっと話を聞いていると、もっと違うものが出来るかもしれないし、積み木なんてなくても山に行けばいいというようなことで、結局何もつくらなくていいかもしれないんですけども。

僕としては一番目指すべき理想としては、高尾山が主役であるということで、あまりデザインが前に立ってくるということはできるだけしたくないなと思っていまして、高尾山に来て、何を覚えていてくれてたかという、高尾山の拠点施設の展示ではなくて、やっぱり高尾山そのものというものを好きになってもらうためには、そこにちょっときっかけになるような魅力的な施設だったり、くつろぎ空間だったりとか、そういうものとしてこの施設が機能すれば一番いいのではないかなと思っていますので、今後、制作を進めていく上でいろいろまたご指導いただくことがあるかと思っておりますけれども、今後ともよろしく願いいたします。

(拍 手)

○事務局 アドバイザーさん、どうもありがとうございました。
委員の皆様におかれましては、2月から本日に至るまで、本当にいろいろとご指導いただきましてありがとうございました。おかげさまをもちまして、一つの方向性が見えてきたと、事務局を代表いたしましてお礼申し上げます。

なお、私どものほうでは本当に至らぬ点がありまして、委員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。進行上、不行き届きがあったかと思いますが、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

いただきました意見につきましては、きちんと丁寧に対応させていただきたいというふうに考えてございますので、また、今後ともいろいろご相談を申し上げることがたくさんあると思います。是非お力を貸していただきますよう改めてお願い申し上げます、お礼をさせていただきますと思います。

今後は理事者への報告、議会への報告、マスコミへの報告と控えてございます。また委員の皆様には、先ほどちょっとお話されていまして、製本したものをお届けする予定でありますので、どうぞお手にとりまして、もう一度ご確認いただければと思っております。

本当に長期間にわたりいろいろとお力をいただきましたことをお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

了